



2024年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2024年11月6日

上場会社名 株式会社ストリームメディアコーポレーション 上場取引所 東
コード番号 4772 URL <https://www.streammedia.co.jp>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 金 東佑
問合せ先責任者 (役職名) 取締役経営企画部門長 (氏名) 山田 政彦 TEL 03-6809-6118
配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無：有
決算説明会開催の有無：有

(百万円未満切捨て)

1. 2024年12月期第3四半期の連結業績（2024年1月1日～2024年9月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年12月期第3四半期	7,521	0.3	363	△0.9	365	△3.0	307	△3.6
2023年12月期第3四半期	7,499	36.2	366	—	376	—	318	—

(注) 包括利益 2024年12月期第3四半期 △227百万円 (—%) 2023年12月期第3四半期 993百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年12月期第3四半期	2.65	—
2023年12月期第3四半期	2.75	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年12月期第3四半期	13,534	7,042	47.5
2023年12月期	12,675	7,210	50.7

(参考) 自己資本 2024年12月期第3四半期 6,422百万円 2023年12月期 6,431百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年12月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2024年12月期	—	0.00	—	—	—
2024年12月期（予想）	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2024年12月期の連結業績予想（2024年1月1日～2024年12月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	9,444	6.0	232	27.6	234	23.0	577	120.4	4.98

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2024年12月期3Q	115,904,831株	2023年12月期	115,904,831株
② 期末自己株式数	2024年12月期3Q	9,930株	2023年12月期	9,846株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2024年12月期3Q	115,894,940株	2023年12月期3Q	115,894,407株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、様々な不確定要素が内在しておりますので、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績はこれらの予想数値と異なる場合があります。なお、業績予想に関する事項につきましては、四半期決算短信〔添付資料〕3ページ 1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
第3四半期連結累計期間	5
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	7
(セグメント情報等の注記)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績の状況

当第3四半期連結累計期間における当社グループに関連する市場につきましては、エンターテインメント業界では、制作費の高騰や円安の影響が続いているものの、2025年にはライブエンタメ市場規模がコロナ前を超えて大きく拡大していくことが予想されており、2024年上半年期におきましてもK-POPアーティストの公演数は、前年と比較し増加傾向にあります。放送業界では、OTTサービス利用の増加による視聴者層の分散や若年層のテレビ離れが相次いでおり、多チャンネルサービスの加入世帯減少や広告収入の減少など市場環境は厳しい状況が続いています。

このような経営環境の中、エンターテインメント事業では、東京ドームにて開催されたaespaによる大型コンサートをはじめ、計43公演のコンサートを開催し、約38万人を動員しました。この結果、当第3四半期連結累計期間において、計74公演のコンサートを開催し、約123万人を動員しました。第3四半期に計画されていたコンサートが変更されるなどが生じましたが、後述のとおりMD事業における客単価が計画を上回ったことや音楽事業における音源販売が好調だったことに加え、他社イベント出演による売上が業績に寄与した結果、計画どおりとなりました。

ライツ&メディア事業では、ライツ事業においては新作コンテンツ獲得営業を実施するとともに、前期に続きアーカイブ作品の販売も強化しており、地上波およびBS・CS放送やOTTサービスへの版權販売を継続的に実施しました。メディア事業においては、KNTVにてKPIに掲げているK-POPプレミアムコンテンツを計3作品放送し新規加入者獲得を図りましたが、多チャンネルサービス市場の縮小に伴い視聴者数は減少傾向にあります。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高7,521百万円（前年同期比0.3%増）、営業利益は363百万円（前年同期比0.9%減）、経常利益は365百万円（前年同期比3.0%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は307百万円（前年同期比3.6%減）となりました。

セグメント別の業績は、次のとおりです。

(エンターテインメント事業)

コンサート事業では、aespaが「2024 aespa LIVE TOUR SYNK : Parallel Line in JAPAN」を実施し、8月17日、18日の東京ドーム公演を含む計11公演、約20万人を動員しました。また、RIIZEはパシフィコ横浜の公演を始め計15公演からなる全国ツアー「2024 RIIZE FAN-CON 'RIIZING DAY' JAPAN HALL TOUR」を実施しました。この結果、当第3四半期におきましては、計43公演を開催し、約38万人を動員しました。前期より公演数は大幅に増加したものの、その多くは中小規模だったことから影響は限定的でありましたが、年間動員数に関しては計画を上回り進捗しています。

MD事業では、コンサート動員数が計画を上回りMD販売に好影響を与えた他、主要グッズの一つであるペンライトの値上げ及びデザインのリニューアルが重なったこと並びにランダムトイを販売したことにより、客単価が大幅に向上しました。また、周辺ビジネス強化の一環として、コンサート開催に合わせRIIZEおよびKEYのポップアップストアを開催しプロモーションを図りました。さらに、aespaのコンサートツアーでは新たなサービスとして、当社では初となる「オンラインくじ」を販売したことがMD事業の好調をけん引しました。

音楽事業では、7月3日にaespaが日本デビューSINGLE「Hot Mess」をリリースしオリコン週間ランキング2位を獲得、9月5日にはRIIZEが日本デビューSINGLE「Lucky」をリリースしオリコン週間ランキング1位、同月25日にはWayVが日本デビューMini Album「The Highest」をリリースし同じくオリコン週間ランキング1位を獲得するなど、計4タイトルを発売し、計画を上回った印税収入が業績に寄与しました。

音楽以外の活動におきましては、東方神起が「正官庄」、aespaが「マックカフェ」、NCTのYUTAが「3CE」の広告に起用され、売上のみならずアーティスト認知度の向上も期待でき、新たなファン層の獲得も積極的に図ってまいりました。当社所属アーティストのブランド力を活用したこのような広告出演は、専門の管掌部署を設け継続しマーケティングを行ってまいります。また、「SUMMER SONIC 2024」や「a-nation 2024」を始めとする他社主催イベントでのパフォーマンスによる出演料が発生し業績に寄与しました。

また、当社オリジナルIPの育成に関しまして、デビューまでは未だ時間を要しますが、さらなるスキルアップを目指し積極的に投資を行っています。

この結果、売上高は5,668百万円（前年同期比2.9%増）、セグメント利益は599百万円（前年同期比0.5%増）となりました。

(ライツ&メディア事業)

ライツ事業では、韓国ドラマの制作本数減少に加えOTT事業者の市場参入によりさらに版權獲得は厳しい状況にあります。また、「監査します(原題)」や「勇敢無双 ヨン・スジョン(原題)」などのドラマ版權を獲得しました。また、「太宗イ・バンウォン(原題)」や「夫婦の世界」といった当社が保有するアーカイブ作品もOTT事業者や各種放送局へ積極的に営業活動を展開し、当社所属アーティストであるNCTのライブ「2023 NCT CONCERT NCT NATION : To The World in INCHEON」のDVD販売も行いました。

メディア事業においては、グループシナジーを活かしたNCT 127ファンミーティング、RIIZEファンコンサートなど

のK-POPプレミアムコンテンツを計3回生放送しました。また「高麗契丹戦争(原題)」や「愛のアンダンテ(原題)」などのドラマを日本初放送し、視聴者の新規獲得および解約防止を図っていますが、売上高の減少は続いています。一方、人気俳優パク・ソジュンの国内ファンミーティング「2024 PARK SEO JUN FANMEETING “ソジュンシ(時)”」の番組版權販売を行い収益を確保した他、当第3四半期におきましても費用削減並びに字幕権利の販売といった視聴料外収益の確保に努めてまいりました。

この結果、売上高は1,852百万円(前年同期比7.0%減)、セグメント利益は227百万円(前年同期比22.3%減)となりました。

(その他事業)

その他事業では、売上高は0百万円(前年同期比100.0%減)、セグメント損失は3百万円(前年同期は25百万円のセグメント損失)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期連結会計期間末の総資産は13,534百万円となり、前連結会計年度末に比べ859百万円増加いたしました。流動資産は12,062百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,636百万円増加いたしました。その主な要因は、売掛金が516百万円増加、コンテンツ事業権が888百万円増加したことによるものであります。また、固定資産は1,471百万円となり、前連結会計年度末に比べ776百万円減少いたしました。その主な要因は、投資有価証券が813百万円減少したことによるものであります。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末の負債は6,492百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,027百万円増加いたしました。流動負債は6,131百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,310百万円増加いたしました。その主な要因は、買掛金が1,105百万円増加したことによるものであります。また、固定負債は360百万円となり、前連結会計年度末に比べ282百万円減少いたしました。その主な要因は、繰延税金負債が281百万円減少したことによるものであります。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末の純資産は7,042百万円となり、前連結会計年度末に比べ168百万円減少いたしました。その主な要因は、その他有価証券評価差額金が316百万円減少及び非支配株主持分が218百万円減少、親会社株主に帰属する四半期純利益307百万円により利益剰余金が増加したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2024年12月期の連結業績予想につきましては、2024年2月6日の「2023年12月期決算短信」で公表しました通期連結業績予想に差異が生じた結果、本日修正しています。詳細は本日公表の「業績予想の修正(上方修正)に関するお知らせ」をご覧ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2024年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,413,639	2,401,587
売掛金	5,077,680	5,594,596
商品	18,049	2,089
番組勘定	452,288	388,328
コンテンツ事業権	1,466,363	2,354,803
前渡金	70,242	232,601
その他	928,034	1,088,874
流動資産合計	10,426,298	12,062,881
固定資産		
有形固定資産	22,594	42,898
無形固定資産	15,221	9,196
投資その他の資産		
投資有価証券	2,115,314	1,301,686
長期貸付金	96,577	93,577
繰延税金資産	48,458	48,458
その他	53,611	79,019
貸倒引当金	△102,851	△102,851
投資その他の資産合計	2,211,111	1,419,890
固定資産合計	2,248,926	1,471,985
資産合計	12,675,225	13,534,867
負債の部		
流動負債		
買掛金	4,073,593	5,179,366
契約負債	103,332	364,961
賞与引当金	35,817	-
その他	608,606	587,222
流動負債合計	4,821,350	6,131,551
固定負債		
繰延税金負債	626,291	344,857
その他	16,616	15,667
固定負債合計	642,908	360,524
負債合計	5,464,258	6,492,076
純資産の部		
株主資本		
資本金	6,042,188	6,042,188
資本剰余金	3,439,214	3,439,214
利益剰余金	△3,900,086	△3,592,472
自己株式	△33,123	△33,136
株主資本合計	5,548,193	5,855,794
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	883,430	566,618
その他の包括利益累計額合計	883,430	566,618
新株予約権	385,752	445,147
非支配株主持分	393,589	175,230
純資産合計	7,210,966	7,042,791
負債純資産合計	12,675,225	13,534,867

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年9月30日)
売上高	7,499,871	7,521,054
売上原価	5,875,623	5,904,308
売上総利益	1,624,248	1,616,746
販売費及び一般管理費	1,257,654	1,253,333
営業利益	366,593	363,412
営業外収益		
受取利息	1,388	1,668
為替差益	7,266	—
業務受託料	1,218	1,009
その他	177	41
営業外収益合計	10,050	2,719
営業外費用		
支払利息	25	48
その他	6	—
為替差損	—	834
営業外費用合計	32	882
経常利益	376,612	365,248
特別利益		
固定資産売却益	—	18,666
新株予約権戻入益	—	706
特別利益合計	—	19,372
特別損失		
減損損失	1,720	—
特別損失合計	1,720	—
税金等調整前四半期純利益	374,892	384,621
法人税、住民税及び事業税	67,791	79,984
法人税等調整額	—	—
法人税等合計	67,791	79,984
四半期純利益	307,100	304,636
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△11,839	△2,976
親会社株主に帰属する四半期純利益	318,939	307,613

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年9月30日)
四半期純利益	307,100	304,636
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	686,843	△532,194
その他の包括利益合計	686,843	△532,194
四半期包括利益	993,944	△227,557
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	727,813	△9,198
非支配株主に係る四半期包括利益	266,130	△218,359

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費（無形固定資産に係る償却費を含む。）は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年9月30日)
減価償却費	16,017千円	8,923千円

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2023年1月1日 至 2023年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	エンター テインメント 事業	ライツ& メディア 事業	計		
売上高					
顧客との契約から生じる収益	5,507,205	1,992,184	7,499,389	481	7,499,871
外部顧客に対する売上高	5,507,205	1,992,184	7,499,389	481	7,499,871
セグメント間の内部売上高又は振替高	4,000	-	4,000	-	4,000
計	5,511,205	1,992,184	7,503,389	481	7,503,871
セグメント利益又は損失(△)	596,962	293,096	890,059	△25,684	864,374

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、カラオケのアプリ事業を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	890,059
「その他」の区分の利益	△25,684
全社費用(注)	△497,780
四半期連結損益計算書の営業利益	366,593

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに配賦していない管理部門等に係る費用であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

ライツ&メディア事業セグメントにおいて、固定資産の減損損失を計上しております。なお、当第3四半期連結累計期間における当該減損損失の計上額は1,720千円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2024年1月1日 至 2024年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	エンター テインメント 事業	ライツ& メディア 事業	計		
売上高					
顧客との契約から生じる収益	5,668,649	1,852,405	7,521,054	0	7,521,054
外部顧客に対する売上高	5,668,649	1,852,405	7,521,054	0	7,521,054
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	-	-	-
計	5,668,649	1,852,405	7,521,054	0	7,521,054
セグメント利益又は損失(△)	599,770	227,882	827,653	△3,746	823,907

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、カラオケのアプリ事業を行っていましたが、第1四半期連結会計期間において事業を終了しております。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	827,653
「その他」の区分の利益	△3,746
全社費用(注)	△460,495
四半期連結損益計算書の営業利益	363,412

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに配賦していない管理部門等に係る費用であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。